

建設業の働き方改革を進める企業を訪問 ～山口労働局長がベストプラクティス企業として 株式会社井原組を訪問しました～

山口労働局（局長 鈴木 輝美）では、11月の「過重労働解消キャンペーン」の取組の一環として、令和7年11月25日（火）、建設業の働き方改革に向けて積極的に取り組む企業への職場訪問を実施しました。

今回は、令和6年4月から時間外労働の上限規制が適用されたことに加えて、改正建設業法等の全面的施行を本年12月に迎える建設業において、完全週休二日制の採用とともに、建設ディレクター制度の導入、ICT技術の活用等により労働生産性の向上を図り、女性活躍にも取り組んでいる株式会社井原組と意見交換を行い、工事現場での取組状況も視察しました。なお、当該工事現場の発注者である国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所所長にも同席いただきました。

ベストプラクティス企業の紹介

企業名：株式会社井原組

所在地：山口県山口市徳地堀1981番地4

設立：昭和34年3月

労働者数：25名（男性21名、女性4名）

事業内容：土木工事業ほか



訪問した企業との意見交換の様子

訪問者

厚生労働省山口労働局 局長 鈴木 輝美

国土交通省中国地方整備局山口河川国道事務所 所長 田村 桂一

面接者
(敬称略)

株式会社 井原組 代表取締役社長 井原 昌二

株式会社 井原組 総務部（建設ディレクター）岡村 愛香



(中央左)
井原社長
(左) 岡村さん

(中央右)
田村事務所長
(右)
鈴木労働局長

株式会社井原組へのインタビュー

(岡村さん)



(井原社長)



(鈴木局長)



(田村所長)



完全週休2日制

(Q 鈴木局長) 完全週休二日制を採用されていますが、いつからでしょうか？

(A 井原社長) 2018年から採用しました。当時は発注者からも「本当に休んでいるのか？」と聞かれたぐらい珍しかったのだと思います。しかし、建設業も週末が休めるような業界に変えないといけないと思い導入しました。結果、週末にしっかり休養できることで、家族との時間や趣味の時間も増え、気持ちに余裕が出てきました。そのころからそれまでほとんど取得されていなかった年休を消化することが当たり前の雰囲気が出てきました。

(A 岡村さん) 週休二日制のおかげで週末を利用し、子どもの世話、家のこともまとめてできています。年休も取りやすい雰囲気となり、会社の中で職員さんの家族の話が以前よりも増えてきています。

建設ディレクター

(Q 鈴木局長) 建設ディレクター導入のきっかけは？また労働時間や職場環境への変化や影響はありましたか？

(A 井原社長) ある時、講演会の中で建設ディレクターモードを知り、技術者を支える新しい職域であるという考え方には感銘し、導入を決めました。建設業によくみられる技術者は昼間は現場での施工管理、夜は書類作成に追われるといった状況が当社でもありました。なお、当社では書類作成のみならず、測量業務や、広報業務も建設ディレクターがサポートしているため、技術者が施工管理業務に集中出来ることにより質の高い施行管理につながっていると思います。これら相乗効果により技術者の時間外労働も約2割減少しています。

(Q 鈴木局長) 建設ディレクターになったことで、何かご自身での変化や職場に与えた影響は感じますか？

(A 岡村さん) 実際に自分自身がICTを活用して現場で測量だったり、3次元設計の図面を読んだりなど、以前より、現場に対する向き合い方が大きく変わりました。また、子どもの病気が気になるときも、パソコンを利用して建設ディレクターとしての業務が行えるため、在宅勤務にしてもらえた期間もあったなど、柔軟な働き方にも好影響がありました。

(Q 鈴木局長) 建設ディレクター業務の中で、ご自身が苦労されている点は何かありますか？また、今後の抱負は？

(A 岡村さん) 私は測量等を担当しているので、時に、整備されていない山の中を歩いていくような苦労はありますが、重量物の運搬等ほかの皆さんに協力をしていただいておりますので、問題を特には感じておりません。今後の自身の抱負としては、ICT技術をもっと向上させることに加えて、現場監督と施工の完成度について、ともに喜べるようになりたいことです。また、建設ディレクターは、子育てしながらでも従事しやすく、女性や若い社員にとっても活躍しやすい魅力ある業務であることを広めていけたらいいなと思っています。

(Q 田村所長) 建設業界においては、若手、技術者の採用に特に苦労している状況にあります。御社のような取組方を参考とするのも有効な方法かなと思いますがいかがでしょうか？

(A 井原社長) 岡村ディレクターの働きぶりを見たのか、ご家族の方がお子さんの就労先の候補として、建設業の様子を見てみたいと見学に来られたことがありました。建設業が家族の方が勧める業界であってほしいと感じております。

ICT活用

(Q 鈴木局長) ICT技術はコストもかかると思いますし、御社の企業規模からしても積極的に採用されている理由は？

(A 井原社長) 地域性もあって、人材確保がより困難という環境にあり、この状況を打破するような働き方の改革の必要を感じておりました。コスト増はあるものの、国等の補助金制度も活用しながら運用しており、その負担以上に、事務部門と現場部門が以前に比べ情報共有が行われやすくなり、モノづくりに職員間の一体感が生まれました。

(Q 田村所長) 国交省が推進するi-Constructionでは、ICT施工による効率化・安全性向上が期待されており、御社では積極的に実施していましたが、実際にやってみて作業効率的にどんな効果がありましたか？

(A 井原社長) 当社では3Dレーザースキャナーを測量に使用しておりますが、丁張りをかける手間が大幅に減り、ICT建設機械を使用することで、オペレーターの技能にかかわらず、作業の質が確保でき、技術者の手間の省略にもつながっており作業の効率化が図られています。

(Q 田村所長) ICTを活用したDX推進の教育についてはどうされていますか？

(A 井原社長) 本人が新しい業務にチャレンジするための意識付けやチャレンジしやすい環境を大切にしております。技能や知識の習得においては、先輩からの技術習得に加え、専門業者の説明や講習会等も活用しています。

井原社長の今後の抱負

(Q 鈴木局長) 今後の働き方改革への抱負は？

(A 井原社長) 時間外労働をより削減していきたいと思うとともに、建設業が5時で帰れることが当たり前の業界になつてほしいと思います。当社が働き方改革を進めるとともに満足度の高い仕事を行うことで、地域、発注者にも喜んでいただける状況につながるのではと思っており、今後とも努力していきたいと思っています。

これまでの会社の課題

- 人材不足（特に若手）
- 長時間労働傾向（特に技術者）

課題を解消するために取り組んだ内容

社長の強い決意の下、以下の取組を中心に働き方改革を推進。

- ①完全週休2日制の採用
- ②建設ディレクターの制度の積極的な導入
- ③ICT技術の活用

取り組んだ結果（効果）

- ①年次有給休暇の取得促進にもつながり、職員間の家族の話題も増え、社員のワークライフバランスが向上。（年次有給休暇取得率63%）
- ②技術者の時間外労働や事務負担の減少に効果。女性にも従事しやすく職務内容も幅広い職域であるため女性活躍のきっかけになっている。(株)井原組では、ICT機器操作のほか、広報も担い5年連続、新規学卒者の採用達成。（建設ディレクター5名のうち女性3名）
- ③労働生産性の向上が社員全体の労働時間の減少につながったほか、若手社員でもベテラン同様の品質を確保できるメリット。（社員平均年齢42歳）

工事現場の視察の様子



3Dレーザースキャナー（ICT機器）を使用して工事現場で測量業務を行う建設ディレクターの岡村さん。



建設ディレクターの仕事ぶりや、ICT技術の活用状況を拝見するため工事現場を実際に歩いてみました。
【工事現場名：令和6年度佐波川上右田地区堤防強化第3工事】



測量された3次元データがタブレット上で表現される状況を説明する岡村さんと鈴木局長。

ICT建設機械を使用することで、設計データに基づき、正確な掘削が行えることについてオペレータから説明を受ける鈴木局長。



視察後の労働局長の講評

株式会社井原組では働き方改革を進めるうえで、建設ディレクターの導入と業務のICT化により、書類作成などによる現場作業の手間や負担が軽減され、労働時間短縮や完全週休2日の導入にもつながったとのことでした。その結果、会社全体のモチベーション向上にもつながったとのことでした。建設ディレクターの方からは、「まだ子供が小さいので、子供の世話をしながらの在宅勤務などができるることは助かっている」「完全週休2日だから働けている」というようなお話しもありました。他社においても、ワークライフバランスの確保と労働者のモチベーション向上につながるような様々な取組がなされることを期待したいと思います。

